

会議録

会議の名称	第3回 加東市配偶者等暴力対策基本計画策定委員会
開催日時	令和4年11月1日(火) 13時40分～14時50分
開催場所	加東市役所3階 301会議室
【出席委員の氏名】 〈出席委員〉8人 海野 千畝子、岩崎 吉泰、新谷 裕亮、安達 満、田中 和宏、別惣 裕美子、楯本 喜己世、 茂木 美知子	
【出席した事務局職員の氏名及びその職名】 ・健康福祉部長 大西 祥隆 ・健康福祉部福祉総務課 課長 近澤 孝則 ・健康福祉部福祉総務課 係長 上田 由美子	
【議題、会議結果、会議の経過及び資料名】 1 議事 (1) 第3次加東市配偶者等暴力(DV)対策基本計画の内容についての検討 2 会議結果 (1) について 第3次加東市配偶者等暴力(DV)対策基本計画の内容について審議しました。 <u>異議なし</u> 3 会議の経過 別紙「令和4年度 加東市配偶者等暴力対策基本計画策定委員会(第3回)会議経過」のとおり 4 会議資料名 ・第3次加東市配偶者等暴力(DV)対策基本計画(案)	

別紙「令和4年度 加東市配偶者等暴力対策基本計画策定委員会（第3回）会議経過」


発言者	会議の経過/発言内容
委員長	<p>1 開会 2 挨拶 3 議事</p> <p>[議事録署名人の指名] ・ 梶本 喜己世委員</p> <p>[議事内容] 議事1「加東市配偶者暴力対策基本計画（案）」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>（事務局より「加東市配偶者暴力対策基本計画（案）」について説明）</p>
委員長	<p>43ページの計画の推進及び評価の数値目標で、加東市DV防止ネットワーク会議の位置づけというものについて、この具体というのは、実際のケース会議をやるのですか。</p>
事務局	<p>庁内の関係各課でDVネットワーク会議を構成しています。そこでマニュアルの確認、意見交換を行っています。マニュアルを年に1度状況に合わせて変更、修正をかけています。</p>
委員長	<p>それを年1回以上することによって、どんな期待ができるのですか。マニュアルの確認にも反映させていくということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員長	<p>より緻密に見ていったり、具体的な事例に突き合わせているのですか。</p>
事務局	<p>今まではDVの対応について、マニュアルの内容の共有というところがメインでしたが、各課との綿密な調整や連携がなければ被害者を守れないことから、今年度は実際に具体的な事例や支援についての検討を定期的な会議とは別で開催しました。今までは配暴センターができたところで、対応を定着させていくことを重点的にやってきましたが、実際の事例対応の積み重ねについても今後は共有していけたらと思っています。</p>
委員長	<p>この「以上」は、随時の開催という形に考えてよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。年1回のマニュアルの確認は必ず行い、プラスアルファとして事例で必要な場合には集まり、共有するということです。</p>

委員	<p>DV防止法も女性新法も、結局要対協のくくりと同じように、会議体を設けることがそれぞれの自治体で判断することになっているようですが、様々な問題を抱えた方の支援方をみんなで作っていくところがしにくくなっています。それは、それぞれの方が抱えている問題があまりにも複雑になってきているというところがものすごくあるのです。自治体と支援方針を共有しようとしてもお互いにずれたり、結果的に支援を必要としている方に不利益を被らせているのではないかとというのが、私たちが心配しているところです。少しでも齟齬をなくそうと思ったら、多分担当課一課だけの考えではなくて、そこに関連するいろんなところとのすり合わせをしていかないと、結果的に支援を必要としている本人が、「そんなはずではなかった」みたいな感じになってしまうので、カンファレンスを考えられているのであれば、そこを意識してやっていただけるといい支援につながっていくのではないかと思います。</p>
事務局	<p>被害者やその子どもを守るという点は一番に考えないといけないところだと思います。要対協もそうですけれども、支援するというのは一カ所の機関では難しいので、DVに関しましても、情報と支援策の共有というところが必要な際にはタイミングよくケース会議等も開催させていただくように進めたいと思います。</p>
委員	<p>被害を受けられた方というのは、若年層から高齢者の方まで来られているという現状があるので、今までのDV被害者のイメージというのは、何となく子どもを連れなお母さんみたいなイメージがあったと思うのですが、そのケースによって、いろんな支援機関も違ってきたりするので、実質的に伴うようなネットワーク会議をしないと、なかなか対応できないケースが増えています。</p> <p>外国人の方も増えています。外国人の方の対応は本当にいろいろなことが起きて、言葉がなかなか難しいということも含めて、コミュニケーションがとにかく取りにくいです。</p> <p>どういうことが問題なのかということ把握しておく、本当に高齢者の方たちもどんどん年齢が高くなってきていますので、高齢者施設とかとも連携していかなければいけませんし、そういう配慮みたいなものをしていくということも必要だと感じています。</p> <p>例えば36ページの子どもの相談実施というところで、担任の方だけではとても対応し切れないので、学校内でどのような体制でやっていくのか、そしてプライバシーはちゃんと守られるのかみたいな、そういうことも必要です。</p>
委員	<p>計画の推進及び評価の数値目標については、この基本目標2や3の被害者の安全確保と自立支援や生活再建で、何か数値目標が入らないかなと考えたのですが、正直なかなか数値にできるものではないので、こういった形になるのだらうなと思いました。主に相談体制の充実ですとか、間口を広くという形で、それについての手段と、アンケート結果を目標にするというのはいいと思いました。</p> <p>あとは、その基本目標2の安全確保や3の自立支援と生活再建というのは、最後に書いてあるネットワーク会議の開催によって、市役所内もしくはその他の関係機関のそういう緊急の対策が必要な分であれば当然警察も入ってくるでしょうし、そういっ</p>

委員	<p>た形でのネットワーク会議、個別のケース会議の活用を活発化させるという形が必要なのだと思います。</p> <p>今日は高齢者の相談をしてきたのですが、活字ではちゃんとしたものができて、現場とのギャップがあり、目が行き届かないところを、どう救うのかというのが大きな問題だと思います。現場の実態をもっと加味したものができていくとか、行動に移していかないと、実際は減っていかないのではないかとというような気がしました。そういった見えないところでそういうことが頻繁に起こっているのが現状でございます。</p>
委員	<p>10ページの(5)の「支援体制の充実」というところの、一番下の③の部分ですけど、「支援を担う人材の育成」という項目の中の1行目が「被害者に対して、支援団体の情報提供等を行いました」というのを書いてあるのですが、これがこの項目に当てはまる文章なのかなというのが引っかかりました。</p> <p>41ページの一番下の項目で、「具体的施策(1)職員に対する教育の実施」というところで、こちらがすぐ上の項目の文章とそのまま、「民間の被害者支援団体と連携して、DV防止の啓発や被害者の自立を支援します」という一文と、その下の取組という項目の「民間の被害者支援団体との連携」というのが、そのままコピーした文章なのかというので、この項目には合っていないような印象かと思うのですが。</p>
事務局	<p>10ページは、少し違和感のあるところに入っているかと思いますので、ここも場所について再検討させていただきます。</p> <p>41ページは、「民間の被害者支援団体との連携」と記載していますが、「市職員を対象としたDV研修の実施」の誤りです。取組内容としては「市職員を対象としたDV研修」ということになります。</p>
委員	<p>38ページの(3)の「若年層が相談しやすい環境の整備」という欄のところで、一番下の部分ですけど、国が実施している「DV相談プラス」の周知を行いますとあるのですが説明があると、この「DV相談プラス」というものが何なのかというのが、ダイレクトに伝わると思いました。</p>
事務局	<p>記載の仕方について、少し検討させていただきます。</p>
委員	<p>目次のところの2枚目の基本目標Ⅲ、施策の基本的方向2のところ、「被害者の子どもへの」という支援と書いてあるのですが、これは1つ字が多いのではないかなと思います。</p> <p>9ページの②の「被害者の子どもへの支援」のところの上から3つ目、「4カ月までに」と書いてあって、前の資料にも同じように書いてあるのですが、生後4カ月と入れたほうがいいのかと、見ながら考えました。</p> <p>2ページ、3ページ、それから4ページ、5ページもそうですけど、(3)、(4)の下の黒丸というのはどうなのかと思って見たのですが、普通の丸でいいのではない</p>

	<p>か、黒丸というのはもう一つかと思ったのです。</p> <p>20ページのこのアンケートの結果のところですけど、「民生委員・児童委員に相談した」というところがないのです。その下を見ると、29年と25年にはこういう「選択肢はありません」と書いてあるのですが、できたらこれを上のほうにでも入れてもらえたらと思います。</p> <p>数値目標について、できれば章ごとに入れられたらと私も思っていたのですが、数値設定というのが難しく、今回の項目になっております。</p> <p>若年層から高齢者、外国人の対応や支援が多岐にわたっているという御意見も、それは相談の現場でも感じているところでして、外国人の方の言語の問題と文化の問題で、対応が難しいというのは日々感じています。そこを埋めていくために、令和2年度にポケトークを購入しまして、外国人の方と翻訳機を使って、コミュニケーションを取れるような対応をしています。第3次計画での外国人への対応については、拡充ということで進めており、外国人にも相談窓口が分かり、支援をつなげることができるよう、外国人向けのリーフレットの作成を進めていこうと思っております。</p> <p>若年層から高齢者というところで、児童相談の担当であったり、障害者福祉の担当であったり、高齢者福祉の担当であったり、それぞれとしっかり連携を取りながら進めていこうと思っております。その上で、さらに何が必要なのかというところまで今後考えていけたらと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>委員長</p> <p>それでは、これをもちまして、第3回加東市配偶者等暴力基本計画策定委員会の議事を終了させていただきます。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>

令和4年12月27日

委員長 海野 千代子 

署名人 梶本 喜己世